

Le bon genre réimpression du recueil de 1827 comprenant les “Observations…” et les 115 gravures. Paris, Les Éditions Albert Lévy, (1827) 1931, 40.2×33.0cm <383, 135-B>

Hiler p.101

本書は1827年版の再版として、パリで発行されたが、再版というより正しくは複製版であり、1928年から1931年までの間に5版出版されたものの一つである。ドワストー (E. Doistau) の版画、タンビューロ (Tamburro) の印刷、ソード (J. Saude) の彩色になり、レオン・モシナック (Léon Mossinac 1890—1964) の序文付きで1931年2月に発行された。この時、限定版750部のうちIからXまでを除いて740部が公に出ており、本書には第548号の刻印がみられる。出版社のポルトフォイエ (紙入れ) 付きインフォリオ (二つ折) 判である。

原本となった挿絵集『ル・ボン・ジャンル』はフランス革命により免職された元神父ド・ラ・メザンジェール (Pierre de la Mésangère 1761—1831) によって、19世紀の初めパリで出版された。この中で彼は、革命により道徳的・精神的価値のみならず物質的価値が逆転したフランス史上の一時代を通じて、社会的地位を失い、精神的規範のよりどころを見失った人々の揺れ動く趣向をじっと見つめながら、当時の風俗や新しいはやりに対して、痛烈な皮肉と風刺のきいた、生き生きとした解説を残している。題材の選択にあっては、常に暇をもてあそび、楽しみを愛し、大胆でしかも軽薄で、政治や戦争よりは恋愛遊戯を追い求める社会階級、とりわけ、その階級の女性たちを取り上げている。

解説「パリのモードと習慣についての観察」を伴う『ル・ボン・ジャンル』は1801年から1822年までの間に継続的に発行された115枚のカリカチュアを集大成したもので、このうち114枚が1801年から1817年までに発行されており、1818年から1822年までに更に11枚がつけ加えられた。

編者メザンジェールは、はじめ神父としての道を選んだが、革命によりその職を追われパリに出た。ここで様々な職業を経験した後、1799年スレーニュ (Sellègne) により創刊された *Le journal des dames et des modes* (99) を買い取り (1802年)、その後発行人となった。この雑誌は、1839年に廃刊となるまで、当時のモード、エレガンスの作法を盛り込んだ初期的モード誌として重要なものであった。

メザンジェールの指揮のもとに『ボン・ジャンル』に絵を描いたのはデュタイユ (A. Dutailly), ランテ (Lanté), ガルヌレイ (Aug. Garneray), パスキエ (Pasquier), ヴェルネ (Carle Vernet), ボジオ (Dominique Bosio), イザベイ (J. B. Isabey), アリエ (Harriet), ガルビザ (Garbizza) らであった。しかし、大部分の版画には署名がなく、正確に作者を推定することは難しい。特にヴェルネに関しては、原画が見つかっていないこと、下絵があまり正確に彫られていないことなどから、彼の作品はほとんど見わけることができない。『ボン・ジャンル』に最も多く絵を描いたランテは、ド・ラ・メザンジェールとのコンビにより、*Costumes des*

femmes françaises du X II^e au X V III^e siècleなどの挿絵集を出版している。彼の画風の特徴はしっかりしたデッサンにあるが、どちらかといえば表現力は逆に平凡である。スカンケル (Schenker) が彫ったボジオの作品は、よく考証された好感の持てる画風ながら、少し重い。

デュタイユの人物はより人間臭い。とりわけ〈にわとり (pl. 43)〉や〈神聖な接吻 (pl. 45)〉などの水彩画は、優れた画面構成力、凝った表現が注目をひく。刻版者として、ガティヌ (Gatine) とスカンケルが選ばれたが、彼らは原画の性格を過度に強調せず、冷静に高度な技術で原画の再現に努めている。彩色については、元の水彩画に比べ、版画では色数の制限があった。

この必然的な色の単純化で、版画はより大胆で新鮮なイメージをもつことになり、水彩画とは異なる新たな画質が得られた。『ボン・ジャンル』はボワリー (Boilly) のカリカチュア的歪曲を通して、今日の画家や版画家にあるかたちで継承されており、また、今日の木版画・銅版画を含む豪華本に大きな影響を及ぼした。(深井)



カポート (あご紐つき縁なし帽) の当惑